



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.8.10 号

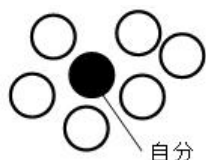
夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

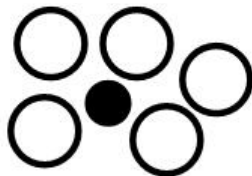
異年齢集団の持つ教育力とは？

子どもが社会人にふさわしい力を身につけるには次の3つの集団に属することが大切です。

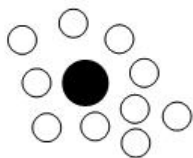
① 同年齢の集団



② 年齢が上の集団



③ 自分より年齢が下の集団



①の同年齢の集団では、自分と周りを比べることもでてくるでしょう。「負けないぞ!」という良い意味でのライバル心が育てばいいことなしです。②の集団では、先輩たちから教えてもらうことが多いでしょう。そして③では、今度は自分が後輩たちに教える責任を果たします。

①の集団は学校で体験できます。これはいいのですが、残るは②と③です。かつて地域の中にあった異年齢の子ども集団。一人の子どもにとっては、小さいときには②であり、大きくなってからは③としての意味を持っていました。こうした3つの集団が子どもの人間関係を形成していきます。

私たちの園では、登園から降園まで異年齢クラスで過ごします。基本が②と③の状態です。

しかしこれでは①がおろそかになるのでは？そこで週に1回は同年齢での活動を行います。同じ年齢・発達でないとできない活動があるからです。(ただ園での同年齢活動では「比較・競争」ではなく、共感や協調性などの社会性を育むことを主眼とします)。

つまり「異年齢クラス編成」とは子どもの心の発達にとってもいいのです。3年間の中で①②③を経験できるのですから。

足を引っ張られる？

いいことだらけのようですが、異年齢保育への批判には、次のようなものがあります。

「下の子どもに足をひっぱられているのでは？」

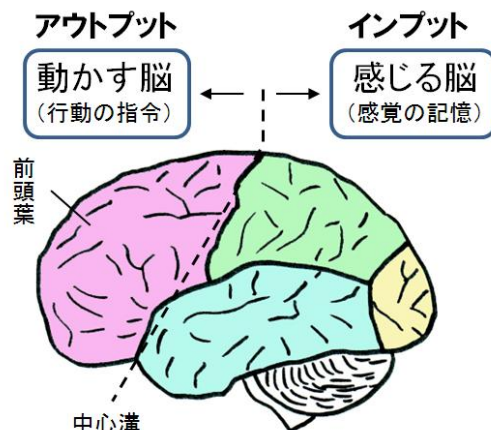
ここには誤解があります。「人に教える」「人の世話をする」ことは、内容的には後戻りかもしれません。しかし精神的には進歩なのです。

「教える」行為(アウトプット)は、本当に自分が理解していないとできません。例えば、1時間の授業のために、教師はその何倍もの時間をかけて準備します(インプット)。

内容の整理だけでなく、理解しやすい手順や表現方法の工夫、他者への共感も必要です。

理解だけならば「10」の労力で済む、しかし、さらに「50」「100」の気働き・心配りが求められます。

この「インプット」と「アウトプット」の関係ですが、そもそも、私たちの脳の構造がその両方を必要とするようになっています。



よく「右脳」「左脳」といいますが、「前脳」「後脳」という分け方もあります。脳の後ろの部分では見たもの、聞いたものなどを感じ記憶します。そして前の部分（大きく発達した前頭葉）では記憶した情報を出すわけです。

ヒトの前頭葉がなぜ大きくなったのか？それは私たちがアウトプットしてきたからです。実際に、脳がフル活動しているときとは、

アウトプットを前提にインプットしているとき

です。

なぜ試験があるのか？試験（アウトプット）がなければ勉強（インプット）しないからです。逆に試験があると、勉強に身が入ります。アウトプットは「表現したい！」という私たちの本能でもあります。

なんだか話が大げさになってきましたが、もちろん園ではそれほどまでに難しいことを教えるわけではありません。ただ、自分よりできない子どもに向き合おうとするその姿勢は、年齢に関わらず一緒なのです。すなわちそれが

「思いやり」

なのでしょう。共感する力。異年齢保育がもたらす最大のメリットです。

教育の本質とは？

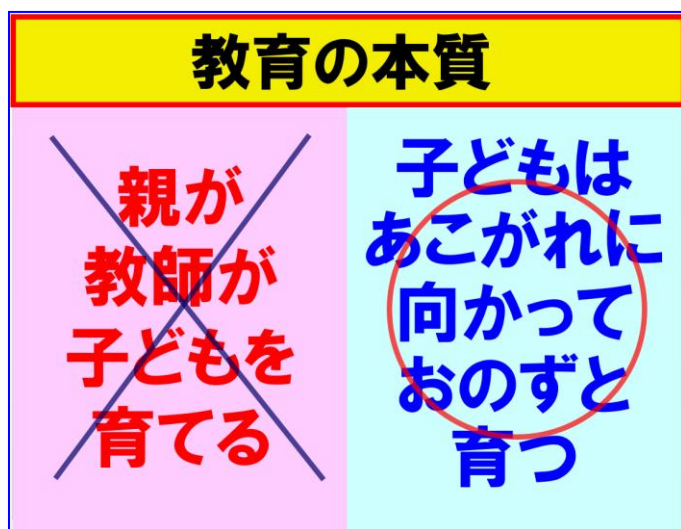
私がよく視聴している、ある教育系YouTuberの方が、「教育の本質」についてこのように言っていました。

**子どもは憧れに向かって
自ずと育つものだ！**



私は思わずはっとしました。ともすると、私たち自身が、私たちの力で子どもを育てている・教えていると思いがちです。教育機関ですからそれはその通りかもしれません。ただ本質を忘れてはいけないと思います。

人を含めて、動物には自分の力で自分を導いていく本能があります。子どもは何でも真似をしようとしますが、これも生きていくための本能です。



「外」からの強制でなく、子ども自身が「あなりたい！」と願ったとき、本当の意味での主体性が現れます。私たちにできるのは、適切な環境を整えることです。

具体的には、モデルとなる年長児を育てること。年少は目の前にいるそのモデルにあこがれて「やってみよう！」と意欲的になります。そして今度は自分が年長になって…

こうしたサイクルが教育そのものです。見守る先生たちはそのお手伝いをします。それが夏見台幼稚園・保育園の保育の根幹にあるのです。

(終)